

## 2011 PEACE CUP

NEC International Wheelchair Tennis Tour : ITF 2

## ルール及び大会注意事項

2011 Peace Cup tournament referee: Y.Takahashi

- ◆規則 2011 ITF テニスルール、同トーナメント諸規則、及び I W T A サーキット倫理規定が適用される。  
 ※特にポイントのかかる Main/Second クラスの選手については、厳重に ITF 規則が適応される。  
 B 以下の選手については、それまでではない。

## 1. サイン・イン

## a) シングルス

メインドロー・セカンドドローに参加する全て選手は自らか又は電話で試合開始前日(10/12(水))の午後4時(16:00)までに  
 レフェリーに申込をしなくてはならない。

電話で申し込んでトーナメントに来なかった選手については、罰金を課される。

サイン・インしない選手については、ドローから抜かれる。電話での詳細の調整は選手の責任である。

## b) ダブルス

ダブルスにエントリーするには、ダブルス選手の両名がレフェリーへシングルスマッチが行われる日(10/13(木))の  
 午後2時(14:00)までにサイン・インしなくてはならない。

エントリー用紙に「ダブルス出場希望」と記していても、会場でダブルスのサイン・インをしなければダブルスにエントリー  
 したことはない。

## c) コンソレーション

1回戦敗退のメインドロー選手でコンソレーションに出場を希望する選手は、コンソレーションのサイン・インをしなくては  
 ならない。シード選手が2回戦で敗退した場合で、1回戦で“bye”を受けたものは、コンソレーションドローに  
 参加することは許されない(Main Drawのみ)。

## 2. 期限後の出場取り消し/試合放棄(ノーショー)

正当な理由無しに、期限後の出場取り消し/試合放棄は自動的に200ドルの罰金が課せられる。

## 3. 試合コートでの違反行為

- a) 時間厳守：試合がコールされてから**15分以内**に試合コートに集合しない出場者は自動的に罰金100ドルが課せられ、  
 レフェリーによって失格させられる。レフェリーの状況判断で失格の措置がとられないこともある。
- b) 服装と用具：トレーナー、ジム用トランクス、ワイシャツ、Tシャツ、タンクトップその他テニスに相応しくない衣装は  
 試合中(ウォーミングアップを含む)は着用してはならない。  
 ロゴは 2011 ITF 車いすテニス倫理規定を適用。
- c) 時間違反：試合の延期：タイム・バイオレーション、20秒、90秒、120秒ルールに対して違反した場合の罰則は、  
 1回目は「警告」、2回目以降は違反のたびに失点となる。
- d) 卑猥な言葉を使う：トーナメント会場において卑猥で下品な言葉を使ってはいけません。
- e) 卑猥なジェスチャーをする：トーナメント会場において卑猥なジェスチャーをしてはならない。
- f) 暴言：いかなる時もトーナメント会場で審判員、対戦相手、観客などに暴言を吐いてはならない。
- g) 暴力的行為：いかなる時もトーナメント会場で審判員、対戦相手、観客などを暴力的に扱ってはならない。
- h) ボールの乱用：トーナメント会場で乱暴に、または危険を顧みずにあるいは怒りをこめて、ボールを打ったり、  
 蹴飛ばしたり、投げてはならない。
- i) ラケット、用具の乱用：トーナメント会場で乱暴に、または危険を顧みずにあるいは怒りをこめて、ラケットや用具を  
 叩いたり、蹴飛ばしたり、投げてはならない。
- j) コーチング：試合中(ウォーミングアップを含む)にコーチングを受けてはならない。試合中、出場者とコーチの間で合図や  
 ジェスチャーによるコミュニケーションがとられていたら、それはコーチングとみなされる。
- k) スポーツマンシップに反する行為：常にスポーツマンに相応しいマナーを心得て行動し、審判員の権限を重んじ、  
 対戦相手には公正に、また観客や関係者に対しては礼儀をわきまをしなければならぬ。
- l) ベストをつくす：NEC 車いすテニストーナメントで競技する出場者は、試合に勝つために最大の努力をしなければならぬ。
- m) 無断でコートを離れる：出場者は試合中(ウォームアップも含む)、主審、またはレフェリーの許可がなければコートを  
 離れてはいけません。この項目に違反した出場者には最高 250 ドルまでの罰金が課せられる。  
 さらに出場者は、不履行としてコンプリートマッチへの怠慢のために追加罰則が課せられる。
- n) コンプリートマッチへの怠慢：出場者が合理的に試合をすることができないなら、  
 出場者は進行中の試合を終了しなければならない。
- o) 式典：正当な理由がない限り試合終了後の式典に出席しなくてはならない。
- p) 記者会見：怪我、体力的に不可能な限り、勝敗に関わらず、試合後のポストマッチ記者会見に出場しなければならない。

## 4. 「ポイントペナルティスケジュール」

前述各項の違反行為に適用されるポイントペナルティスケジュールは以下の通りである。

- 1回目の違反／警告 2回目の違反／失点 3回目、それ以降の違反ゲームを失う。  
4回目以降の倫理規定違反に関しては、レフェリーの裁量で失格もあり得る。

## 5. その他の反倫理行為・倫理的行為については、2011 ITF 車いすテニスハンドブック参照のこと。

## 6. 「レット」

## サービスレット

## a) セルフジャッジの場合；

レシーバーのみがレットをコールできる。サーバーが誤ってコールした場合、

- ①コールに関係なくプレイが続いたらそのまま続行する。  
②プレイが中止されたら、コールしたサーバー(或いはペア)の失点となる。

## b) ソロチェアアンパイヤ(SCU)がついた場合；( B以下のシングルス・ダブルス決勝戦)

原則として、主審のみがレットをコールできる。誤ってプレイヤーがコールした場合

- ①コールに関係なくプレイが続いたらそのまま続行する。  
②プレイが中止されたら、コールしたプレイヤー(或いはペア)の失点となる。  
③「レット」のコールの後、主審がレットをコールすれば「サービスレット」になる。

## c) チェアアンパイヤ(CU)がついた場合；(各メイン・セカンドのシングルス・ダブルス準決勝～)

全てのコールをアンパイヤが行う。プレイヤーのコールはできない。

## その他のレット

- a) インプレー中、外部から試合コートにボールが入ってきた場合は、双方のプレイヤーがレットをかける(そのポイントをやり直す)ことができる。  
b) インプレー中にプレイヤーが持ち物を落とした場合は、双方のプレイヤーがレットをかけられる。但し、レットは1回目までで、2回目からは落としたプレイヤーの失点となる。

## 7. 「サービス」

- a) サーバーは、サービスモーションに入る直前、いったん制止しなくてはならない。  
サーバーはその後、ボールを打つ前にフンプッシュしても良い。  
b) サービスの期間中いずれの車輪も、ベースラインの後方に位置し、センターマークとサイドラインの仮想延長線の間以外の区域に触れてはならない。  
c) クार्टプレイヤーが通常の方法でサービスを行えない場合、第3者がフンバウンドさせたボールを打ってサービスしても良い。

## 8. トイレ休憩ブレイク

トイレ休憩はシングルス、ダブルスとも1試合につき2回までとすることができるが、セットブレイクにとるのが望ましい。トイレ休憩の時間は「リーズナブル(常識的に必要とされる時間)」とする。

主審がいる試合であれば主審の、いない試合であれば対戦相手に許可を得なくてはならない。

対戦相手はリクエストを拒否することはできない。

**3回目以降**は主審、コートレフェリー(ローピングアンパイヤ)、あるいはレフェリーの許可が必要である。

プレイヤーが許可を得ず 3回目のトイレ休憩をとった場合は、倫理規定により「無断でコートを離れた」とみなされ、罰則の対象になる。

## 9. 「車いす修理、破損した用具、ラケットのストラッピング(クार्टプレイヤー)」

主審、コートレフェリー(ローピングアンパイヤ)、およびレフェリーは、試合を中断することができる。

車いすの修理は、1試合中、合計で20分を越えないかぎり、何度でもできる。

20分を超過した場合の当該プレイヤーに対する処置は、現場の審判員の裁量に任される。

**クार्टプレイヤーが、エンドチェンジでラケットを固定するストラップの巻き直しをする場合は、90秒を超過してもペナルティは課せられない。**但し、試合前にストラップの巻き直しについて主審と対戦相手に承諾を得ておかねばならない。また、なるべく速やかに巻き直しをするよう努力しなければならない。

## 10. 「その他」

- a) コンソレーションに出場するプレイヤーは試合終了後、直ちに本部に届け出て受付をして下さい。  
b) 天候、試合進行状況によって競技方法、試合開始時刻、試合コートが変更する場合があります。選手はあらかじめオーダーボード、オーダーオブプレイ、又は競技本部で確認すること。